

## 4. タイに設立したメディカルトレーニングセンターの活用と周辺諸国への展開事業

学校法人 順正学園 九州保健福祉大学

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

日本の血液透析技術は世界トップである。日本の透析装置（CDDS）を寄贈したタイのメディカルトレーニングセンターを活用し、日本の臨床工学技士を派遣し、日本製医療機器の操作、保守・管理法をタイおよびカンボジア、ラオス、ミャンマーに普及・拡大させる。

### 【活動内容】

タイにメディカルトレーニングセンターを設立し日本製医療機器を寄贈した。このメディカルトレーニングセンターを活用し、ASEAN 周辺国医療指導者を対象としたトレーニングを実施する。

### 【期待される成果や波及効果等】

日本製医療機器を用いた研修を実施することで、日本製医療機器の ASEAN 普及のハードルを下げるとともに日本およびタイが ASEAN 医療技術に関してともにイニシアチブを獲得する。

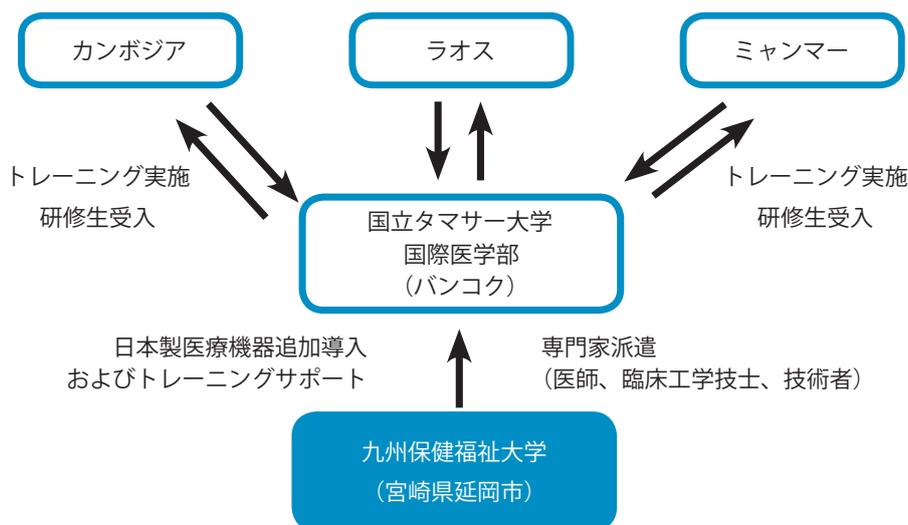
### <研修実施結果>

#### 1月 研修生受入 (14名)

- ・カンボジア・ラオス・ミャンマー医療従事者をタイのメディカルトレーニングセンターで指導
- ・日本製医療機器を用いた実技研修

#### 8,1月 専門家派遣 (6名)

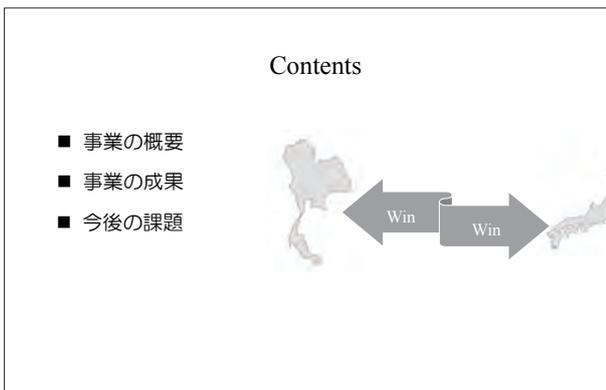
- ・日本製医療機器を用いた操作・保守管理に関するサポート





3年間にわたるタイに設立したメディカルトレーニングセンターの活用と周辺諸国への展開事業についてご報告します。タイのタマサー大学国際医学部にできた新棟の6階に日本製医療機器を入れることに成功しております。

最初に結果から申しますと、ASEAN からの研修生への座学および透析用水の検査などの実習を行いました。タイと周辺諸国の水事情は良くありません。医療に用いる水としてというよりも、水道水の時点から濁っていますので、いかにして綺麗にするかに取り組む必要がありました。水を綺麗にすることによって、日本のように透析の質を向上することができることを教育していかなければならないため、腎臓病の食生活から水処理の実践まで座学およびワークショップ形式で学んでいただきました。これによってタイで日本製の医療機器を用いることで、これらの装置を用いた研修が ASEAN で行うことが可能になりました。



その経緯について、事業の概要からお話します。これからお話しすることは、タイ、日本、そして ASEAN 諸国すべてにおいて Win-Win の関係となっています。

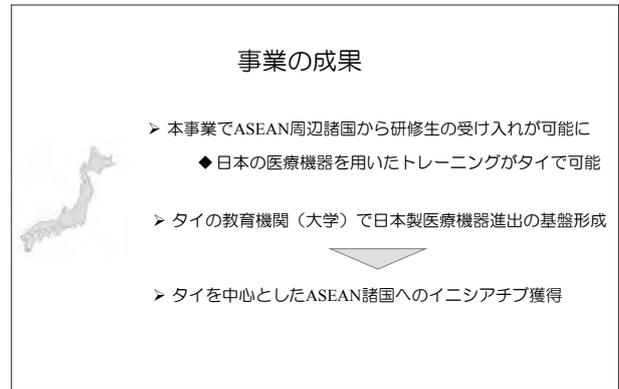
### ■ 事業の概要

事業の概要ですが、本年度採択いただいたのは、メディカルセンターの活用です。これまでの3年間の事業によってタイのメディカルトレーニングセンターに日本製の透析装置の導入が可能となりました。その装置を用いて、操作、保守・管理について、タイを基盤としてカンボジア、ラオス、ミャンマーに普及させようと考えております。目的としては、日本製の医療機器を使用することによって、日本製医療機器の ASEAN 普及のハードルを下げるとともに、日本およびタイが ASEAN 医療技術に関してイニシアチブを獲得することとしました。

当初はカンボジアとミャンマーのみでしたが、急きょラオスからの強い要望がありまして、研修生はカンボジア、ラオス、ミヤ

ンマーを対象としました。トレーニングを行う場所はタマサー大学国際医学部です。日本製の医療機器をトレーニング用機材として寄贈したタイの施設にて研修を行いました。

スケジュールですが、トレーニングを実施したのは2018年1月です。カンボジア、ラオス、ミャンマーの医師、看護師、Biomedical engineer の14名を対象に研修を行いました。それに伴い、2017年8月にタイに行き、事前にセットアップと打ち合わせを行いました。



### ■ 事業の成果

事業の成果です。本事業では ASEAN 諸国から研修生の受け入れが可能になりました。これによって日本の医療機器を用いたトレーニングがタイで可能になったということです。タイの医療機関や協力機関、大学を通じて日本製の医療機器をタイに進出させるための基盤を構築することができたと考えております。タイを中心とした ASEAN 諸国へのイニシアチブの獲得につながったと考えております。



スライドの写真は2017年8月にタマサー大学国際医学部 (CICM) での新棟ができた時の様子です。タイの佐渡島大使も視察にいらっしゃいました。集合写真の右側はタマサー大学長の Dr. ソムキットで、左側は国際医学部学長のカマル教授です。集合写真は、オープニングセレモニーの時のものなのですが、背景に富士山の写真があります。新棟6階は、このように和風の内装になっています。

また、9月初めにはメディカル・エクセレンス・ジャパン (MEJ) の方が視察にいらっしゃいまして、アテンドさせていただきました。これらの活動によってタイから周辺諸国への情報発信も期待できると考えております。

## 事業の成果



血液透析用水の評価に関する研修

2018年1月に実施した研修では、血液透析用水の評価に関する研修を行いました。透析用の水の評価する方法と必要性がカンボジア、ラオス、ミャンマーなどの周辺諸国ではまだ理解されていませんでしたので、どのように透析液の中の菌対毒素を測るのかななどを指導しました。それから透析用のRO装置ですが、タイやASEAN諸国の水処理装置は非常に大きいスペースを要するのですが、日本製はサイズがコンパクトです。実際に使用すると、恐らく砂ろ過装置をつけないと詰まってしまうかも知れませんが、RO装置を用いたトレーニングが可能になりました。そして研修を通じて、この装置を用いていかに水を綺麗にするかを学んでいただきました。日本製の医療機器を用いたタイでの研修を確立したと言えます。

## 今後の課題

- タイのメディカルトレーニングセンターを通じて他の国への日本の医療技術の移転、医療機器の国際展開、相手国の医療水準向上を目指す。

“平成30年度”以降の課題

## ■ 今後の課題

最後に今後の課題についてお話します。タイのメディカルトレーニングセンターにおいて1年間のプロジェクトを3回連続で3年間にわたって事業を採択いただきました。日本の医療技術の移転、医療機器の国際展開、さらには相手国の医療水準の向上を目指して実施してまいりました。今後の課題としては、地の利を生かしてメディカルトレーニングセンターをさらに活用していくことにあると考えています。ミャンマー、ラオス、カンボジアに加えてインドネシアなど交通アクセスの良い国からタイに研修生を呼び寄せることによって、日本の医療機器を用いたトレーニングと普及が期待できます。以上です。ありがとうございました。